疾病偽装、医療偽装、安全安心偽装ストーキング
短編追加記事その１
外食時の弾圧パターン

第1版　2015年1月2日

【 はじめに 】

私の名前は戸﨑貴裕です。本書のタイトルにある医療偽装という点で、日本における医療の現状、特に、2000 年前後から「お医者さんに相談」広告の急増していることに違和感をお持ちの方は、「日本語では知らされない精神医学の嘘 ～精神医学の嘘から、グローバル製薬企業が日本市場に仕掛けた『うつ病キャンペーン』まで。～」をお読みください。主に精神医療という医療詐欺システムのグローバル化に端を発する話ですが、英語圏ではこれを告発する専門家やジャーナリストがいる一方で、日本のメディアが伝えない、日本の権威が議論しない根本的な詐欺のからくり、そして、日本において、この精神医療のやり方をお手本とし、客観的検査を必要としない定義のあいまいな病名と診断を利用した医療偽装により、多くの国民を患者として飼い殺しにする集金システム、飼い慣らせない人物を社会から排除して自殺に追い込むシステムがあちこちで構築され、さらに維持拡大されつつある、その一端に気が付くことができ、さらには、言いがかり診断を論破する知識も身に付くでしょう。その一方で、様々な分野でグローバルな均質化と序列化の進む世界にあって日本語の情報のみに依存することがいかに危険であるか、実感できるのではないでしょうか。

さて、私のサイトでは「疾病偽装、医療偽装、安全安心偽装ストーキング：追求すべきは司法の病理」や「ストーキング実行ネットワークと警察協力団体ネットワークの一致」でお話ししている国家犯罪システムの具体的手口について、「ガスライティング詳細解説」をはじめとし、理論及び実例を挙げてきましたが、本書では、外食時にどのような行為が行われるかについての情報を短編記事として追加することとします。

1【 外食時のパターン 】

本犯罪のターゲットが同じ飲食店をおおむね 3 回ほど訪れると、もうこの店には来たくはないな、と思えるような客や店員の行動、それから提供される飲食物の質の極端な低下がはじまります。

本書からお読みになると、なぜそんなことが可能なのか、本当の話なのか、これがほんとうに飲食店で出された肉の写真なのか、と首をかしげてしまうかもしれません。「疾病偽装、医療偽装、安全安心偽装ストーキング：追求すべきは司法の病理」及び「ストーキング実行ネットワークと警察協力団体ネットワークの一致」をお読みでない方は、はじめに同 2 書をお読みください。この犯罪が公になることのない理由とともに、ごく普通の飲食店の対応が変貌する理由がお分かりになると思います。

飲食店が権力に逆らうのは命とりなのではないかと思いますから、本書で取り上げるような行為をやりたくてやっているのではない店もあるでしょう。店員さんからそういう雰囲気を感じることもあります。そういう場合にはお店側に悪いので、本書で題材としたお店のように何度も実験しに通うことはしないことにしています。

 ©2015 Takahiro Tosaki. All Rights Reserved.

さて、多くの場合、当初は接客も料理も良い飲食店であったにもかかわらず、3 回ほど同じ飲食店を利用すると、店員の態度が変わり、もしくは、アルバイト店員が増えたり、総入れ替えになったりし、目標となる人物（ターゲット）、それから、ターゲットの座っている椅子や机にぶつかって行ったり、何度呼んでも反応しなかったり、注文を忘れたり、注文と違う品を出したり、ひたすら製氷機の氷をかきまぜ始めたり、水（お冷）やおしぼりがターゲットにだけは出ないようになったり、皿やコップを落として派手な音を立てたりといった寸劇のような行動を繰り返すようになり、真夏にはターゲットの座っている場所だけエアコンを切ったり、近くのエアコンが故障している席に案内したり、あるいは冷風が背中や料理に当たり続けるようにエアコンの風向きが固定されたり、真冬には店の入り口付近の席に案内されるようになり、客や店員が代わる代わる入口のドアを開けっぱなしにしたり、自動ドアであればドアの前で立ち話、店員と客の立ち話などで開けたり閉めたり開けたり閉めたりを延々と繰り返したり、といったことが行われます。そしてもちろん、多くの映像記録があります。

こういった、せっかく気に入った店だったのに、もうこの店には来たくはないな、と思えるような客や店員の行動は、特定の店で起こるのではなく、先に書きましたように、来店 3 回目くらいから、多くの店で行われます。このパターンは提供される飲食物の質の低下を伴い、これが何故か焼き肉店で顕著なため、今回は肉の写真で料理の質の極端な変化をお見せしようと思います。

2【 焼き肉店での実証 】

客や店員による挑発的な態度や不快にさせるような行動については、それを気にする人にとってはそれだけでその店に行きたくなくなる理由となるかもしれませんし、本犯罪のターゲットであることに気が付いていない人にとってはガスライティング的な効果が期待できると思いますが、実害とまではいえませんし、私のように実害がない限り他人の自由行動が全く気にならない性格の人間には何の効果もありません。しかし、提供される飲食物に問題があるとなると話は別です。

ターゲットに対しては、カビの生えた果物、凍ったチャーシュー、噛み切れない肉、もはや何の肉だかわからない色、油の質の肉、粉を固めただけのようなぽさぽさした食感の麺類、油に浸されたハンバーグ、そういった飲食物が平然と出されることがあります。ちなみに、本犯罪と関係のなさそうな客の多い時には、同じ店舗であっても、まともな飲食物の提供されることが多くあります。

本書では以下、実証のため 1 年ほど通った焼き肉店で実際に提供された肉の写真をご紹介します。今回は写真のスペースが広いため、はじめに写真の説明を行ってから写真を示す構成を取ります。

さて、次ページ（3 ページ）上段の写真は、同焼き肉店の「もも肉ランチセット」というメニューで出てくる肉の写真です（牛肉）。もも肉らしく、赤身の多い肉です。初めて同店を訪れた頃、もしくは本犯罪と関係のなさそうな客の多いときに提供される同メニューの肉はおおむねこの写真のようなもので、同店のメニューにある写真もこのような肉です。

次に、同ページ下段の写真は、同じく「もも肉ランチセット」の肉の写真です。いつもの牛もも肉を期待した人からすれば気味の悪い見た目だけではなく、牛肉の匂いはせず、石油製品のような臭いがし、見た目にも洗剤のようなテカリがあります。ちなみに、同店側に脂身が苦手と伝えておくとその後脂身が多くなっていったのですが、さらに酷くなった時点での肉がこの写真になります。

次に、4 ページ上段は、当初からいた店員さんのいる時をみはからい、少々高めの「上ハラミ」を注文した際に提供された肉の写真であり、同ページ下段はその後「上ハラミ」として提供されるようになった肉の写真です。

 ©2015 Takahiro Tosaki. All Rights Reserved.

 ©2015 Takahiro Tosaki. All Rights Reserved.

ご覧の通り、「もも肉ランチセット」の肉も「上ハラミ」も変貌を遂げたわけです。各ページの肉を同時に提供されたら、間違いなく違う肉だというクレームを受けるでしょう。なお、脂の違いは炭火で焼くとはっきりとわかります。特に「上ハラミ」の場合、4 ページ上段のような肉の脂は、当初から店にいた店員さんによる、国産牛で油の質が良いという説明の通り、甘い香りのする脂で、あぶるだけですぐに燃えて炎があがりますが、同ページ下段のような肉の場合、甘い香りなどなく、単にジュクジュクと気味の悪い音を立ててあぶくを出すだけです（各動画あり。）。

ちなみに、写真で示したような違いがない場合、特に問題が無いように見えるような場合でも、ゴムのような食感でいつまでも噛み切れなかったり、筋だらけで噛み切れない肉だったり、牛肉とは思えない匂いや焼け方が見られたりすることがありますので、見た目だけでは判断できません。

飲食店でこのような行為が行われる場合、いつもの肉と全然違いますね、といったように話しかけると、はじめのうちはいちおう取り換えてくれたりもします。しかしそのうち、「同じはずなんですけどねぇ」、とか、「うちは一頭買いなのでしばらく同じ肉になっちゃうんですよねぇ」、「皆さん食べてますけどねぇ」、などと白々しくも開き直ります。石油製品臭の何の肉だかわからないような代物やゴムを食べているかのようにいつまでたっても噛み切れない肉を食べて喜ぶ客はいないと思います。

本書で挙げている写真の肉を出した店では、店長に肉を両手でびよんびよんと引き伸ばしてそのゴム感を見せたりもしましたが、開き直り方は一緒でした。警察、検察、裁判所が幇助してくれる犯罪システムに飼い慣らされると、人格はなくなるようです。

以上が、自称「肉がうまいと評判の店」に 1 年ほど通い、どのようなパターンが見られるか観察した結果です。わざわざそんなことをせずに店をかえればよいではないか、と思う方、もう一度、冒頭の説明を思い出してください。こういったことは特定の店で起こるのではないのです。おおむね 3 回以上食事をすると、もう行きたくなくなるような出来事がこれでもかと起こるようになるのです。

【 本書のおわりに 】

本書でお話ししましたような客や店員の行動は、飲食店だけで繰り広げられるわけではありません。はじめに、客について、わらわらと現れて「まとわり」を行う人々は国家犯罪システムの末端要員として多数存在し、サロンと名の付くような一角のある高級店舗などの例外を除いてどのような店舗にでも現れます。次に、店側について、コンビニや小規模なスーパー等では、3 回ほど同じ商品を購入すると次回からその商品はなくなることが多くあります。取扱いが無くなったり、その商品が売り切れていたり、時にはその商品だけレジ裏に退避してあったり、ということがあります。

ターゲットとされている皆さんにおかれましては、くれぐれも、代わりのいくらでもいる頭数の挑発に乗らないようにしていただけますと幸いです。挑発に乗って末端要員とトラブルを起こしても、また、これで外出を控えるようになっても、精神医療という国家犯罪の餌食になります。今必要なのは、彼らの行動の記録と、証言者としての皆さんが生きているという事です。

以上、お読みいただき、ありがとうございました。

本書の背景となる犯罪を私に訴えながらも亡くなった清水由貴子さん、

そして、同犯罪を訴えるすべての方々に捧げます。

2015年1月2日

戸﨑　貴裕

 ©2015 Takahiro Tosaki. All Rights Reserved.

【 本書の利用について 】

本書の商用利用を禁じます。商用利用以外の目的における配布は形態を問わず自由ですが、本書の一部を転記する場合には、転記の形態を問わず、著作権表示とともに本書が出典であることを明記してください。なお、本書の利用により生じた損害は、いかなるかたちにおいても補償いたしません。

その他本書についてのご意見、ご要望、お問い合わせ等は、ユーザー名 qqnn4cfp9、ドメイン juno.ocn.ne.jp のメールアドレス宛にお願いいたします。アットマーク（@）でつなげるとメールアドレスになります。なお、年間 4 万から 5 万通前後の迷惑メールがくる状態もあり、返信の保証は致しかねます。ご了承ください。

【 ご支援・ご協力について 】

本コンテントは、AGSASサイトの一部です。2005年のサイト開設以来、調査、コンテンツ作成等を自費でまかない、ご支援のお申し出があるたびにお断りさせていただいてきたのですが、ここ数年、生活妨害がひどくなる一方の状況を鑑み、ご支援のお願いを掲載するに至りました。

つきましては、サイトの内容が有用であったとお考えの方、また、管理人の活動をご支援いただける方におかれましては、下記口座までお好きな金額をお振込みいただけますと幸いです。

三井住友銀行　渋谷支店（654）　普通口座　5073008 名義　トサキ　タカヒロ

昨今は振込に対しご不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。その際には、管理人が入金確認をいたしますので、前記メールアドレスまで、件名を「要入金確認」とし、振込人様のお名前と金額をお伝えいただければ、入金確認後に折り返しメールさせていただきます。ただし、前記の通り年間4万から5万通前後の迷惑メールがくる状態ですので、誠に申し訳ございませんが、入金確認は金額が1,000円以上の場合のみとさせていただきたく、ご理解の程お願い申し上げます。

なお、ご意見やご要望とは異なり、ご入金を理由にサイトの方針、活動内容やコンテンツの内容を変更することはいたしません。ご了承願います。